

交換留学生定期レポート（1月）

人間科学部人間科学科

武信瑞生

約4ヶ月間の1st semesterも終わりを迎え、タマサート大学の学生も冬休みに入りました。私の留学生活も残りあと半分となり、まだまだタイでやっていないことがたくさんあるなあとと思うと、焦燥感に駆られます。ただ、それだけ留学期間として与えられた10ヶ月という時間はとても短いものです。日本人学生を含む多くの学生がこの一学期を終え、それぞれの国へと帰っていきました。皆口々に、「まだ帰りたくない」とか「あつという間だった」と言っていました。私はあともう一学期こちらで過ごしますが、帰国の時になるだけそのような感情を持つことがないように残り半分となった留学生活を過ごします。



・チェンマイで開催されたコムローイ祭り（ランタン祭り）。皆既月食の夜に数千ものランタンが打ち上げられました。写真では語りきれないほど幻想的で感動的な瞬間でした。

タイに行く際には是非参加してみてください。

留学生活での後悔

留学生生活を半分終えたこの時期にこの5ヶ月を振り返り、敢えて後悔していることを取り上げてみたいと思います。まずは自分の語学能力についてです。授業が英語で行われるということである程度英語を聞き取れ、読み取れるよう準備したつもりでしたが、私の能力ではついていくのが困難な程先生も学生も英語を使いこなしています。私はタイ語もわからないので授業を聞くことも、また誰かと雑談をすることでさえもかなり難しかったです。

次に後悔しているのはタイに来る段階でタイについて多くを知らなかったことです。それは表面的なことではなく、タイ人の気質や文化などのような少しディープな部分も含むので、実際来る前から把握するというのは難しいことでしたが、無知であったことがタイで人と付き合う上で少し自分を苦しめたと思います。

そしてもう一つは自分が日本について多くを知らなかったということです。授業でも誰かと喋る時でも、「日本人の場合どうか」とか「日本人の男性としてどう思うか」など聞かれるたびに返答に困り、苦しむということがありました。日本人として海外に行っている以上、他国の人間は日本人としての私のアイデンティティに興味があると思うし、自国とのギャップに興味があると思います。日本人という肩書きを背負って生きているという

感覚はなかなか普段持たないので日本人に対するステレオタイプを以て質問されると困ることもあります。海外に出てみて、自分が自国のアイデンティティを大切にしていなかったのかもなあと気づかされました。

留学やそれだけでなく、自分のホームとは異なる場所で暮らす経験をする人にはこれらの後悔が最小限となるよう最大限の準備が求められると思います。



・バンコクからバスとフェリーを乗り継いで行くことができる島、ラン島。透明度の高い海がとても綺麗です。

タイと言えば世界一美しいとも言われるピピ島を初め、たくさんの島とそれを取り囲む美しい海があります。

乾季（寒季）の今、タイはベストシーズンを迎えています。